# 『めぶく。』から、『はぐくむ。』そして、『つなぐ。』へ

## －新しい未来を生み出す協働・共創の場としての Kyoai Creative Park－

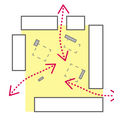
共愛学園が地域の人たちと共に積み上げてきた 140 年近い歴史の中で、次なる新たな挑戦の扉を開くことになる新学部は、新しいことを探求する楽しさと発見に満ちた豊かな空間であるべきだと考えます。新校舎は、地域と人材を『はぐくむ。』場となり、前橋と世界と未来を『つなぐ。』プラットフォームとなります。私たちの提案は、そんな、わくわくに満ちた新しい学びの場としての『Kyoai Creative Park』です。

今までの市場経済とは違うデジタル情報を扱う新しい経済の時代を迎えていいます、テクノロジーの面だけではなくその背景にある哲学や精神そのものを考えることが大切です。これからの時代の「富」とは「お金」ではなく「名誉や信頼」になるとも言われているように、人間の価値観が変わる時代では、まさにその根本となる教育が重要であり、大学は学術的な研究に加えて実践的な教育指導を行い、次の世代を担う人材を育てる役割を担っています。前橋市では産・官・学が連携し、地域人材の育成・定着をテーマに「めぶく。プラットフォーム前橋」が発足しましたが、その中でも特に共愛学園は幼（こども園）・小・中・高・大を有する学府として、多世代型のキャリア教育を担う中心的な存在です。デジタル化に向けた明確なビジョンを持つ前橋市と連携した共愛学園ならではの、「はぐくむ」「つなぐ」KYOAI デジタル・グリーン学部。その最先端の学びを多方向からサポートするための建築の提案です。

### ❶ 文理融合の新しい交差点

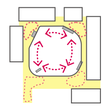
新 6 号館は各校舎からの動線とキャンパスの軸線引き込み、新学部の文理が出会い、融合する交差点となります

### ❷ クリエイティブ・パーク



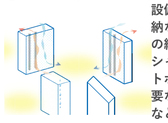
多様で自由な活動を誘発する自然光に満ちた広場のような場、社会や学習のニーズに合わせて可変する多くの偶発的・発見的出会いにあふれた KYOAI デジタル・グリーンを表象する空間です。

### ❸ コラボレーション・リンク



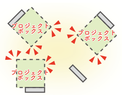
研究室クラスターとグループワークエリア（GWA）を緩やかに連続させ、研究室の垣根を超えたコラボレーションを生む研究活動が連環する空間です。

### ❹ スマート・コア



ブレース付き耐震壁に設備配管シャフトや収納などを付与した建物の縦のインフラとなるシャフトです。ホワイトボードや給排水が必要な設備を付加させるなど、活動のよりどころになります。

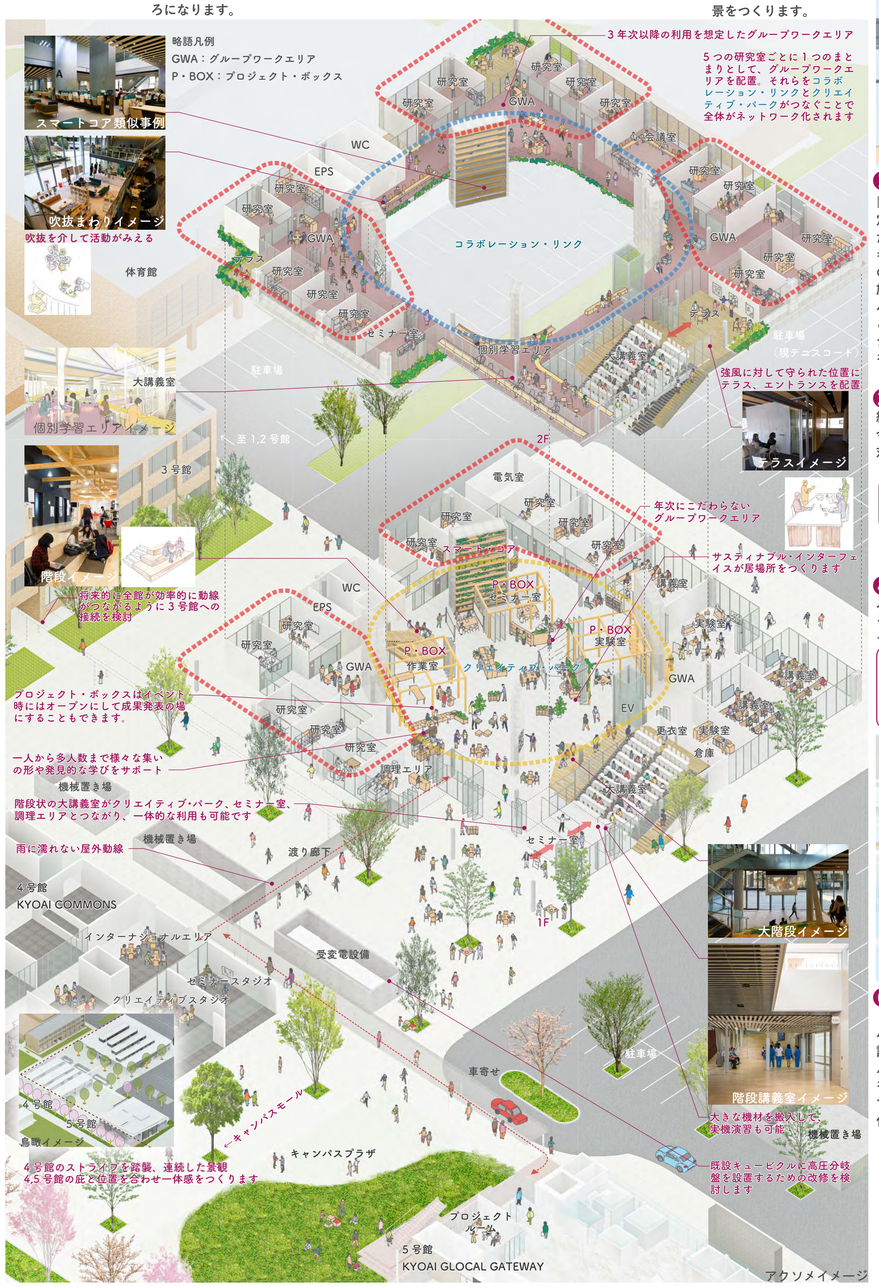
### ❺ プロジェクト・ボックス




木のフレームと建具によって構成し、クリエイティブ・パークと多様につながる空間です。「スマート・コア」に接続させることで、設備環境を確保し、将来的な可変性にも対応します。

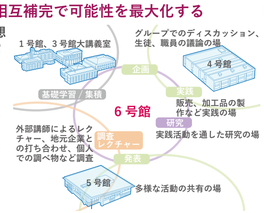
### ❻ サスティナブル・インターフェイス

気軽に空間を可変させる、可動の家具・什器によって、クリエイティブ・パークでの活動を最大化させます。自然素材、リサイクル建材などを活用し、KYOAI デジタル・グリーンらしい風景をつくります。



### ❶-1 キャンパス全体の相互補完で可能性を最大化する

「デジタル・グリーン学部」で想定されるカリキュラムは 6 号館だけで完結するものではなく、キャンパス全体に展開されるものと捉えることが重要です。各施設での活動を定義し、キャンパス全体の可能性を最大化することで地域社会と連携した「デジタル・グリーンシティ構想」を実践可能になると考えます。

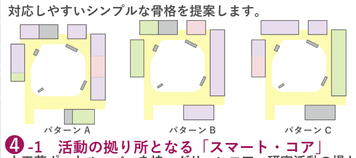



### ❶-2 合理的なインフラ計画

既存インフラの状況から 6 号館では既設受変電設備に高圧分岐盤を設け、新たにサブキュービクルを整備します。既設浄化槽は既存施設の利用への影響を踏まえて、行政協議の上の影響の少ない方法を採用します。

### ❷❸ 柔軟な対応が可能なフレキシビリティの高い骨格

経済的で汎用性が高いスパン設定により、研究室やセミナー室など諸室は今後の打合せの中で自由に入替可能な計画です。将来的な改修・改変にも対応しやすいシンプルな骨格を提案します。




### ❸-1 可変性の高い様々な研究室タイプと GWA（グループワークエリア）

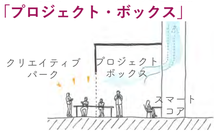
研究室の特性に応じた様々な研究室タイプを検討します。可動間仕切りや建具により、多様な GWA と研究室の関係と使い方、セキュリティラインの設定など可変性の高い計画です。

### ❹-1 活動の拠り所となる「スマート・コア」

人工芝ボットルーバーを持つグリーンコア、研究活動の場として利用出来るホワイトボード壁のレクチャーコア、研究成果を保管、展示するアーカイブコアなどの多様な活動を支える設えを検討します。

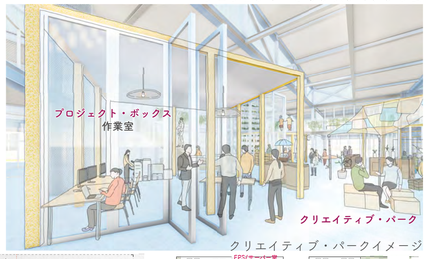
### ❺-1 「スマート・コア」と「プロジェクト・ボックス」

「スマート・コア」には空調換気・給排水の設備配管が内包されており、プロジェクト・ボックスの専門的な実験機器の導入も可能にします。そのため、将来的な改修にも容易に対応し易い計画です。




プロジェクト・ボックスダイアグラム

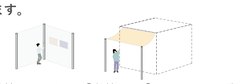
「プロジェクト・ボックス」/「スマート・コア」イメージ




クリエイティブ・パークイメージ

### ❻-1 自由な場をつくる サスティナブル・インターフェイス

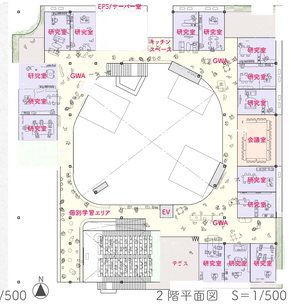
パークには居場所づくりのきっかけとなる什器を計画します。床仕上げをOAフロアとし、モジュールに合わせた「単管」や可動家具、什器が居場所をつくります。再利用、再資源化を意識した材料でつくられ、利用者の創意工夫によって多様に変化します。



「単管」＋パネル「単管」＋「ボックス」＋布
展示スペース　テントスペース

プランター、ベンチ、ハコ棚、机、etc

1 階平面図　S＝1/500

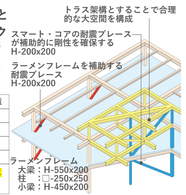



2 階平面図　S＝1/500

### ■経済的でフレキシブルな構造を目指して

経済性、施工性を考慮し、8.4m を基本モジュールとした「耐震ブレース付きラーメン構造」を採用。「クリエイティブパーク」の屋根はトラス形式を採用することで、コストを抑えながらフレキシビリティの高い空間とします。

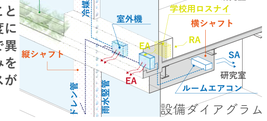
8.4m を基本モジュールとした合理的な構造




| | 鉄骨造 | 木造 | 鉄筋コンクリート造 |
|---|---|---|---|
| 工期 | ○ | △ | × |
| スパン | ○ | × | △ |
| 重量 | ○ | ○ | × |
| コスト | ○ | × | △ |
| 総合評価 | 工期・コストメリットに加えて、**群馬には優れた技術を持つ鉄骨工場が多くあること**から、鉄骨造を採用致します。 | | |

### ■メンテナンスが容易で改修しやすい建築

「コラボレーション・リンク」の外周には縦、横のシャフトを計画します。これにより研究室はルームエアコンと室外機が一対一対応し、配管長さを抑えることが可能です。研究室は機器の使用頻度によって改修のタイミングもそれぞれで異なります。機器交換が必要な部屋のみを改修することが可能な、メンテナンスが容易な計画です。




### ■新自然的でサスティナブルな計画

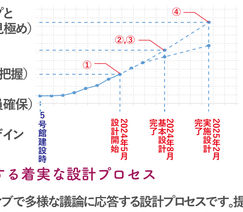
自然採光、通風を確保した新自然的な建築とします。

縦、横のシャフトによる合理的な設備配管計画とすることで全体の階高を抑えながらも、気積の大きい「クリエイティブ・パーク」により圧迫感のない計画です。

### ■高騰する建設物価に対応するコストプロセスデザイン

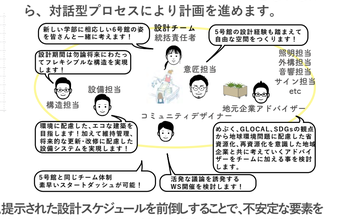
社会情勢不安に加え、建設需要バランスの不安定化、人員不足は、2024 年問題も相まって建設物価は高騰を続けています。地方においても首都圏に劣らない上昇傾向にあるため、コストを最大限に考慮した設計プロセスが重要だと考えます。

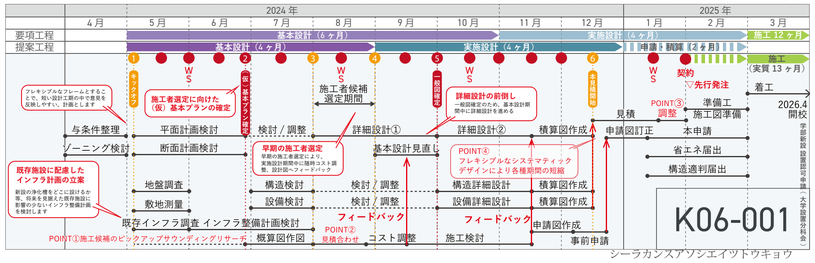
①スタート時点での施工候補者のピックアップとサウンディングリサーチ（建設単価の見極め）
②躯体、フレームを早期決定し、基本設計完了時点での施工者選定（適切、正確なコスト把握）
③早期発注による資材確保（単価の固定化、資材・人員確保）
④フレキシブルでありながら計画変更の少ないシステマティックデザイン




### ■KYOAI デジタル・グリーンを実現する先進的で地域と連携したチーム

大学理事、教職員、学生一体となって施設の計画を練り上げ実現していくために意見交換をおこないながら、対話型プロセスにより計画を進めます。




### ■クリエイティブな議論を可能にする着実な設計プロセス

激動する建設状況に応答しながらも、クリエイティブで多様な議論に応答する設計プロセスです。提示された設計スケジュールを前倒しすることで、不安定な要素を抑えながら、新学部設立に向けたクリエイティブな議論に柔軟に応答します。設計自由度の高いフレキシブルな設計デザインにより、この設計プロセスを実現します。